

# 健苗の適期移植で初期生育促進と良質茎を確保！

## 1 育苗後半の管理 ～適正な温度・水管理と移植前追肥で活着の良い苗に仕上げる～

### ●管理上のポイント

育苗後半の管理	育苗様式	
	稚苗・ハウス	稚苗・露地プール
温度・水管理	①温度管理: 日中 15～20℃、夜間 10～15℃ (8℃以下にしない) ②硬化期前半 ・午前中早めにハウスの換気を始め、夕方には閉める。 ・灌水は朝に充分行き、夕方は床土が乾燥した場合以外は灌水しない。 ③硬化期後半 ・異常低温時を除き、田植えの5～7日前からは夜間もハウスを開放する。	①除覆、湛水後は苗が伸長しやすいので、水温の上昇に注意し、必要に応じて水の更新を行う。 ②霜注意報の発令時等、異常低温が予想される時は速やかに箱上まで湛水する。 ③育苗箱を軽くするため移植2日程度前から落水する。
移植前追肥	①追肥は移植4～5日前に1箱当たり窒素成分で1～2gを箱上から施用する。 → 資材別の施用例) べんとう肥 15～20g/箱 くみあい液肥2号 100～200倍液 500ml～1L/箱 } どちらか選択 ②プール育苗の場合は、落水後に液肥を灌注するか、箱の上まで水を張って肥料を施用する。後者の場合は施用後2日間程度は落水しない。 ③施肥後は葉焼けを防ぐため灌水する。 ④軟弱・徒長苗の場合は、障害が発生する可能性があるため追肥を控える。	

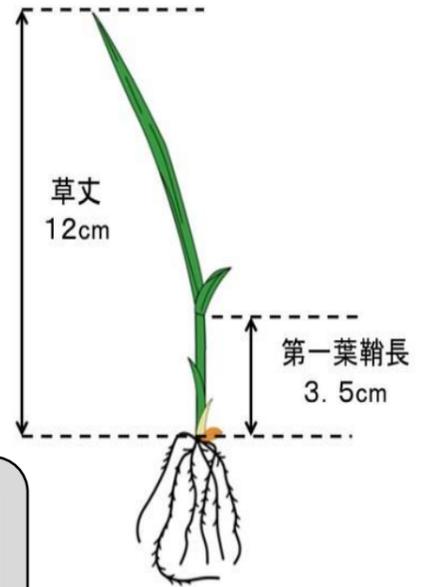


図1. 理想的な稚苗 (2.0葉の規格苗)

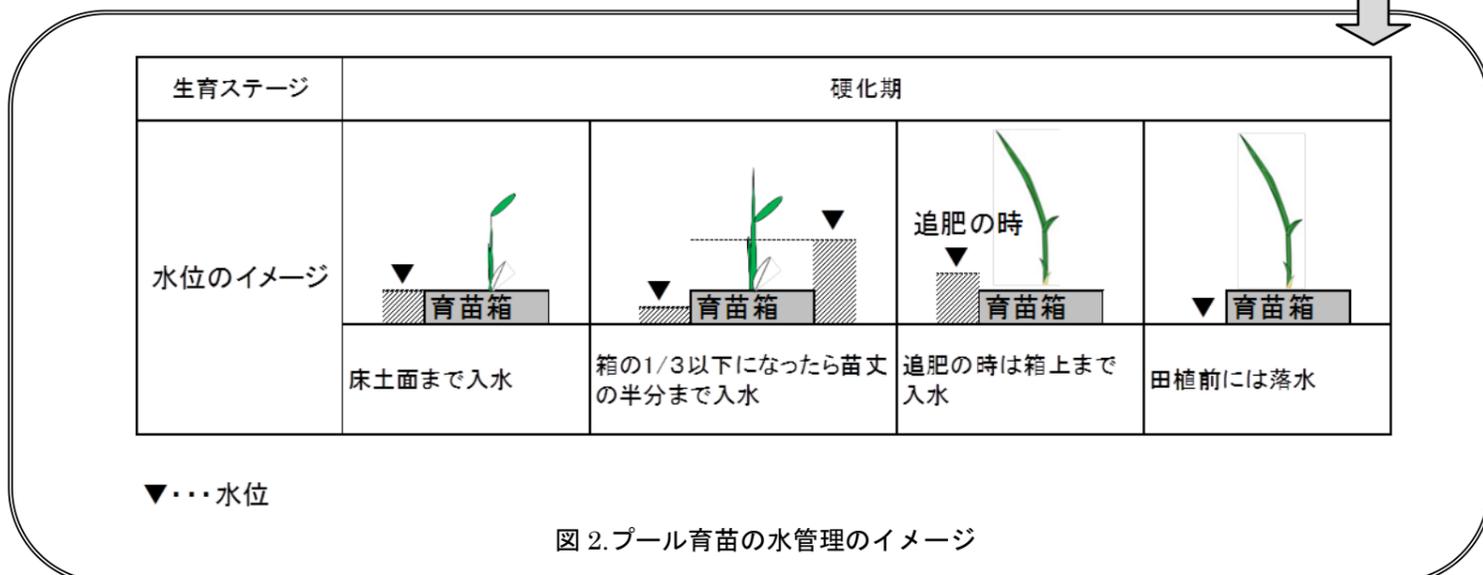


図2. プール育苗の水管理のイメージ

## 2 適正な施肥設計

基肥は良質茎の早期確保のために重要です。しかし、施用量が多すぎると過剰生育となるため、前年に過剰生育となったほ場や倒伏したほ場では減肥しましょう。それぞれのほ場の地力や作付品種に合わせて施肥量を設計することが重要です。

リン酸・加里の少ない肥料を使用する場合は、事前に土壌診断を行い、リン酸・加里が不足している場合は単肥等で補うようにしましょう。

[コシヒカリ基肥量のめやす(kg/10a)] (分施) ※カッコ内は中山間地

成分	窒素	リン酸	加里
粘土質	2～3 (2～3)	7 (10)	6 (6)
砂質	3～4	8	8
黒ボク	(4)	(10)	(8)

[こしいぶき基肥量のめやす(kg/10a)] (分施) ※カッコ内は中山間地の値

成分	窒素	リン酸	加里
粘土質	3 (3)	7 (7)	6 (6)
砂質	4	8	6
黒ボク	(4)	(7)	(6)

### 3 移植適期と移植時の留意点 ～極端な早植え・遅植えを避ける～

(1) 移植適期および栽植密度のめやす

品 種	地 域	移植適期	栽植密度	ポイント
つきあかり こしいぶき	平坦地	5月5～10日頃	60株/坪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早生品種は穂数確保のため田植えが遅れないようにする。</li> <li>・ コシヒカリは高温下の早期出穂による品質低下を防止するため、5月上旬の早植えは避ける。</li> <li>・ 茎数を確保しにくい地域・品種では栽植密度を60株/坪以上とする。</li> </ul>
	中山間地	5月15～20日頃	60～70株/坪	
コシヒカリ	平坦地	5月10日～15日頃	50株/坪	
	中山間地	5月20日～25日頃	60株/坪	

(2) 稚苗加温・ハウス育苗の場合の育苗日数のめやすは20日程度（露地プール育苗の場合は25日程度）とし、苗を老化させないように計画的に作業を進めましょう。

(3) 植付条件は活着・初期生育に影響を及ぼすので、下記に留意しましょう。

ア 植付本数は1株当たり3～4本としましょう。

イ 適正植付深度（2～3cm）を守りましょう。

(4) 基肥一発肥料等を使用する場合は、被覆肥料のプラスチック殻がほ場から河川等に流出しないよう、代かきは浅水で行い、田植え前は強制落水せず自然落水で水位調節しましょう。

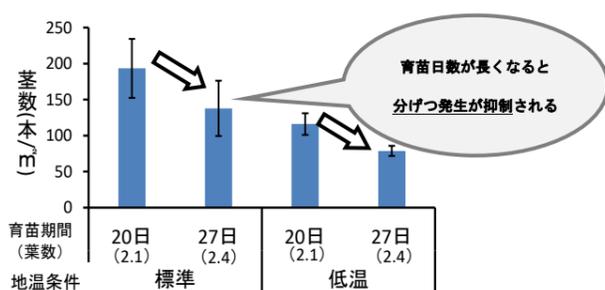


図3. 稚苗の育苗期間が初期分げつの発生に及ぼす影響（作研セ）

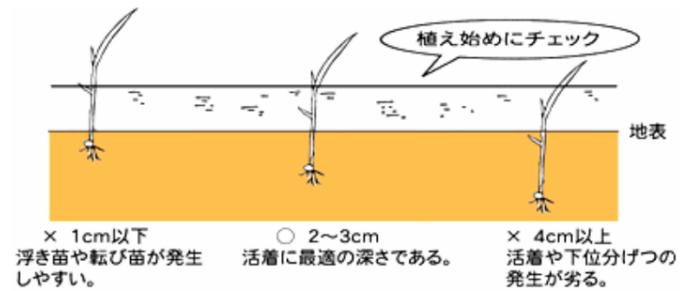


図4. 移植時の植付深めやす

### 4 移植後の水管理

(1) 活着するまでは3～4cmのやや深水とし、保温的水管理で低温や強風による植傷みを回避しましょう。

(2) 活着後は2～3cmの浅水管理とし、分げつの発生を促しましょう。

(3) 昨年度も「ひこばえ」の発生量が多かったことから、移植後のワキの発生に注意し、発生が多い（水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する）場合は夜間落水を行い、根の健全化を図りましょう。

### 5 除草剤使用の留意点

(1) 除草効果を高めるため、散布後4～5日間は除草剤の種類に応じた水深を確保してください。また、散布後7日間は止水し、落水やかけ流しはしないでください。

【参考】除草剤の種類ごとの水深めやす

- ① 1キロ粒剤 → 3cm以上
- ② フロアブル剤 → 5cm以上
- ③ ジャンボ剤  
豆つぶ剤 } → 5～7cm以上
- FG剤、エア一粒剤 }

(2) 除草剤に抵抗性のある雑草の発生を避けるため、同一の除草剤や同じ作用性の成分を含む除草剤の連年施用は避けましょう。

(3) 散布時の留意点

ア 植え傷みにより活着が遅れている場合は、イネの生育回復を待ってから散布しましょう。

イ 異常低温又は異常高温時や強風時は、薬害の発生や飛散の恐れがあるので、除草剤の散布は避けましょう。

ウ 散布前に必ず使用上の注意事項をよく読み、使用方法や使用上の留意点を守りましょう。